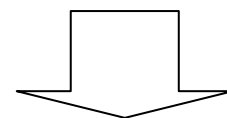


学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1 年	2 年	3 年
<p>全体的に授業への関心が高く、積極的に取り組んでいるので進度の差はあまりみられないが、最後まで丁寧に仕上げるのが難しい。発想が豊かでアイデアが豊富だが、表現力は稚拙な面がある。豊かな発想力を伸ばし、形や色彩の表し方など美術の基礎的スキルをしっかりと身につけさせることが必要である。</p>	<p>美術に苦手意識を持ち始める生徒が増え、技術が身につけていない場合が多くなる。進めずにいる生徒には直接丁寧に教え、理解させ、美術に興味・関心を持たせるような取り組みが必要である。</p>	<p>苦手意識を持っている生徒は進度が遅くなりがちで差が出ている。特に自分で独自に考えながら発想し制作していくことに苦手意識を持つ生徒に対し、いかに興味・関心を持たせるかという取り組みが必要である。</p>



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ただ作業をこなすだけで美しさや完成度を求めて仕上げられない生徒をどう指導していくか。 パターン化された稚拙な表現で済まそうとする生徒をどう指導していくか。 道具の使い方、動かし方を身につけさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、ここまで進めるという目標を板書し、生徒に作品制作の進度を意識させる。 作品づくりに最後まで集中させる生き生きとした環境をつくり、制作時に机間指導と声掛けを増やす。一人一人にアドバイスをし、よりよい作品ができるように指導する。 自由度の高い小さいサイズでのアイデアだしをできるだけ多くやらせる。 机間指導の際は色・形・技法・道具の扱い方について具体的な例を示してアドバイスを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で作品が完成できなかつたり、進度が遅れている生徒は放課後を活用した指導を実践する。 優秀作品を掲示し、よりレベルの高い作品を目標とさせる。 道具の準備と片付けの徹底化を図る。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> 美術に対する苦手意識をどう取り除いていくか。 表現の稚拙さをいかに高めていくか。 技術と発想の思い切った取り組みをいかにしてさせるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術が苦手な生徒は、発想や構想の段階で、簡単なものを考えアイデアを消してしまい進まない生徒には、アイデアをどう具現化するかを具体的に示す。また美術が得意な生徒にはより完成度の高い制作へ導くため、技法や色彩、構図についてレベルに応じた見方や技術を身につけさせる。 表現力が稚拙な生徒は作品の見本や資料を用意し、どのくらいのレベルを目指すべきかを理解させ、道具の扱い方や、形や色彩の表し方、美しく作るための技術を身につけさせる。 作品制作の過程で、出来るだけ直接実演で示しながらアドバイスし、発想がいかして技術に結びついていくのかを実感させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で作品が完成できなかつたり、進度が遅れている生徒は放課後を活用した指導を実践する。 優秀作品を掲示し、よりレベルの高い作品を目標とさせる。 道具の準備と片付けの徹底化を図る。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> アイデアを出したり、デザインを考えたりすることへの苦手意識をどう変えていくか。 美術に苦手意識を持ち進度が遅い生徒をどう指導していくか。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな種類の図鑑や参考作品を置き、発想を誘発するための材料として活用させる。また、下描きの段階ではアイデアを広げたり、深めたりして発想を膨らませて考えさせる。 美術が苦手な生徒には、何が苦手なのかを自覚させアドバイスを与える。また、美術が得意な生徒には、さらにレベルの高い作品ができるようアドバイスを与える。 作品の提出日までの個のペースとスケジュールを考えさせる指導をする。 表現の工夫ができるよう個にあった技術等を指導し、援助・支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で作品が完成できずに、進度が遅れている生徒は放課後を活用した指導を実践する。 優秀作品を掲示し、よりレベルの高い作品を目標とさせる。 道具の準備と片付けの徹底化を図る。